

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460



■住職法話

たりき によらい ほんがんにき
他力というは、如来の本願力なり

■浄土真宗 ◎仏事のイロハ

■本願寺の本

たんにしやう
歎異抄はじめました

■お知らせ、編集後記

Photo

今年は、立て続けに大きな災害に、日本中が見舞われています。編集集中も、異例のコースをたどった台風12号による被害が報道されています。佐久市も、風による農作物の被害があります。特に、収穫期の桃は、枝ごと折れてしまい大変な被害です。

住職 法話

他力たりにきというは、如来にょらいの本願力ほんがんりきなり

小学一年生の娘は、小さな頃からプール教室に通っていました。進級する度に、プールが大好きになって、今では数メートルは、ひとりで泳げるまでになりました。泳げるようになったという喜びと共に、夏は家族で海水浴に行くのが恒例となりました。

海といえは、万行寺のある長野県佐久市には、「日本海から一番遠い地点」という場所があります。太平洋、日本海側どちらからも、海岸線から一番遠い地点ということ。佐久市の東方、群馬県との県境付近の雑木林の山中にあるため、簡単に行ける場所ではありませんが、海岸線

まで直線距離で約百十五キロの地点だそうです。海から一番遠いという寿司屋さんもあるほどで、佐久市ではちよつと有名な雑学です。

長野市在住の頃は、ほど近い日本海側に行く事を考えましたが、佐久市に来て、さらに海から離れて、どちらの海に出るのもほぼ同じという大きな選択肢にせまられました。「海がきれい」「砂浜がきれい」「良い宿がある」といったことが理由で、ここ数年は、静岡方面の海に行くことが多くなりました。

できます。広辞苑によりますと、「他人の助力。仏、菩薩の加護の力を指す。浄土門において阿弥陀仏の本願の力という」とあります。親鸞さまは、「他力」というは、如来の本願力なり」と言われます。阿弥陀仏の本願の力をよりどころにしなさいという意味が込められています。

私たち人間も、さまざまに願いを持ち、その願いに従って生きています。ある意味、一番身近なのもかもしれません。しかし、親鸞さまが仏さまの他力をよりどころにと言われるのは、身近な私たちの願いに従うのではなく、全く反対の「他」というものか

らの願いを聞き入れて生きることを意味しています。自分から一番遠いのが、阿弥陀仏の本願とも言えましょう。仏さまは、いつでもどこでも見守って下さる身近な存在でもあります。その働きは私たちとは比較にならないくらい遠くかけ離れています。

八月のお盆の月は、私も多忙になるため、先日も静岡方面に海水浴に行ってきたばかりです。今回は海を例にしましたが、直ぐに行くことができない遠い場所から遙々行ってみると、あらゆるもの大切さや有り難みがわかってくるものです。仏さまの本願力も同じです。



浄土真宗

⑧ 仏事のイロハ

一、お仏壇のお飾り

— 仏さまを仰ぐ —

「先祖の捉え方」

亡き人はどこへ行った？

「お仏壇は亡き人が入るところではない」という意味のことを申しました。「それは、亡き人はどこへ行ったのだ！」と、思われるでしょうから、もう少し解説させていただきます。

実体として捉えた亡き人がお仏壇の中にあるわけではない、ということをもう一度申しあげたいと思います。一時、よく歌われた『千の風』は、お墓の中に（亡き人は）いな

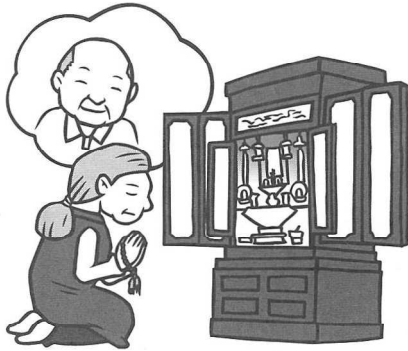
いというような歌詞でしたが、それとよく似ています。すなわち、実体としての亡き人はお仏壇の中にはいないけれども、かたちやこだわりを超えて、仏さまとなられた亡き人はいつも私に寄り添ってくださっています。その亡き人に、お仏壇を通して会うということなのです。

実はそれがお仏壇のお仏壇たる所以なのです。「亡き人は阿弥陀仏の救いによって浄土に生まれ、仏さまになられ

ている」と味わいます。そして、お仏壇はその阿弥陀さまの浄土を表しているのです。本来、浄土は色もかたちもない真実そのものの世界であり、私たちの思考を超えた世界です。それをかたちに表そうとしたのがお仏壇の造りだと言われています。

ということ、亡き人は、お仏壇のどこかにおられるのではなく、阿弥陀さまの浄土に生まれ、仏さまとなつていつでもどこでも私たちに寄り添い、一人ひとりを輝かせようとはたらいておられます。お仏壇はその亡き人が生まれ、浄土を表しているのです。

さらに、浄土に生まれられた亡き人の心を伺えば、私たちに「自分を敬い、手を合わせようにせよ！」と上から視線で思ってはおられないでし



よう。それよりも、私たちに「限りあるいのちを精いっぱい生き抜いてくれ。そのためにも、阿弥陀さまの深い慈悲のお心を頼りに、人生を力強く歩んでくれよ」と願われていることでしょう。

お仏壇で阿弥陀さまを仰ぎ、お心を受け取っていくことが、そのまま亡き人の心になつていけるのです。

ポイント

▼亡き人は阿弥陀仏の救

いで浄土に生まれる

▼お仏壇を通して、浄土

に生まれ仏となつた亡き

人を偲ぶ

「浄土真宗 ⑧ 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より」

～本願寺の本～

たんにしよう

歎異抄はじめました

しんらんしようにん

親鸞聖人から届いたメッセージ

釈徹宗・大平光代 著

本願寺出版社 刊 1,512円(税込)

しんらんしようにん げんこうろく えしんにこう
親鸞聖人の言行録や手紙、その妻・恵信尼公の
手紙から見えてくるのは、人生に苦悩する等身
大の人間像。宗教学者・釈徹宗氏と弁護士・大平
光代氏が、その内実に迫って語り合う対談本。
若者たちを交え、『歎異抄』から現代社会の悩
みを掘り下げる討論会も収録。(本願寺出版社H
Pより)

「歎異抄」に関する書籍は数多く出版されています。まず、学んでみたいという方にお薦めの本なのではないでしょうか。



万行寺門信徒会会員の皆様へ

万行寺は皆様の会費によって支えられています。本年度分を早速に納めていただき、誠に有難うございました。本年度分の本山と長野教区への賦課金納入にあてます。ご案内を差し上げておりますが、まだ未納の方におかれましては、何卒、ご理解、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

編集後記

お盆の月を迎えます。亡き方々を偲びながら、仏さまを身近に感ずる時期でもあります。ちようど、「仏事のイロハ」でも取り上げたところですが、ご先祖とは何か、亡くなった方はどこへ行ったのか、ということであらためて考えてみましょう。◆「住職法話」では、いわゆる他人の助力に頼るといった良くない使われ方をしている「他力本願」の本来の意味をお伝えしたいという考えもありました。人間からの救いなどではなく、阿弥陀さまという仏さまのお救いをよりどころにということ

